

## 紹介 史料室関連出版物

### 同窓生の本

この春、同窓生が相次いで学生時代の思い出の記を出版された。一冊は旧制専門学校最後の学年が卒業五十周年を迎えるのを機に出された『私たちの学生時代 神戸女学院のものがたり』（私たちの学生時代）を発行する会編、一九九九年五月発行）である。この本は、二年前に『卒業五十周年 私達の記録』（神戸女学院高等女学部六二回生、一九九七年三月発行）を発行した同窓生方が中心になって、更により多くの方々の思い出と写真を集めて編纂されたもので、戦前・戦中の神戸女学院の学生生活を伝える生の史料となる。内容は、山本通の神戸女学院、戦前の岡田山、戦中、戦後と四部構成になっており、神戸にあったミッシヨン スクールの自由な雰囲気、戦前でも軍国主義の影響を受けることなく続けられた英語や音楽の授業、戦争中の勤労奉仕、戦後の復興が語られている。この本ことは神戸新聞、読売新聞、毎日新聞紙上に取り上げられ、紹介された。

もう一冊は『青春の記―戦中戦後の学院生活―』（神戸女学院高等女学部六五回・六六回翠会、一九九九年四月発行）。これは、本のあとがきにもあるとおり、二年先輩にあたる六二回生の文集『卒業五十周年 私達の記録』に触発されての発行である。卒業五十周年を機にまとめられた文集で、こちらも戦中・戦後の貴重な史料である。学校生活、勤労奉仕の様子など、詳細な記録が残されている。制限された状況下で学生時代を送ったこれら同窓生方は、こうした大変な時代にあってもなお、学院に守られ、愛に育まれて成長できたことの幸せを感謝している。

これらの本を読むと、高齢の方々の記憶の鮮明さに驚きを感じる。そして一人一人の語る学校生活が何と生き生きとしていることか。ミッシヨナリーか日本人かを問わず、先生方との触れ合いを通して学院で受けた教育とそれが人生に及ぼした影響などが読み取れる。

こうした過去の記憶は日々風化していく。先輩方がこうしてまとめ、残して下さったものは、後の世代への貴重な遺産となっていくことであろう。

（佐伯裕加恵）